

第9回「くすりのしおりクラブ」 担当者会議

くすりのしおりコンコーダンス委員会 宮武 昌也

くすりのしおり[®]を作成している製薬企業161社の担当者とくすりの適正使用協議会との情報交換の場として、第9回「くすりのしおりクラブ」担当者会議を2016年1月29日に大手町サンスカイルームで開催しました。

「英語対応薬局で拓かれた医薬品情報の新たな領域」、「医師から見た薬剤師と医薬品情報の新しい関係」の2題で講演

講演1では、株式会社ダイチク（アイングループ）県央A ブロック ブロック長の井上 幹雄先生をお招きし、「英語対応薬局で拓かれた医薬品情報の新たな領域」をテーマにご講演いただきました（写真）。井上先生は英語の薬剤情報発行システム（MINTS : Medical Information Translation System）をご自身で開発し、外国人や海外渡航する日本人に対して年間1,000件を超える情報提供を行っています。2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催で多くの外国人観光客が訪れ、英語による情報提供の必要性が増すことが予測され、委員会としても英語版くすりのしおり[®]の充実を急ぐ必要があると感じました。

講演2では、ファルメディコ株式会社代表取締役社長であり、日本在宅薬学会理事長の狭間 研至先生をお招きし、「医師から見た薬剤師と医薬品情報の新しい関係」をテーマに

ご講演いただきました。狭間先生からは、外科医であり、かつ薬局経営者である視点から、薬剤師に求められる医薬品情報提供の今後の在り方がわかりやすく説明されました。調剤業務だけでなく、患者さんを訪問し積極的に情報交換する薬剤師像は、古いイメージを一新する興味深い内容でした。

くすりのしおり[®]の現状、 くすりの適正使用協議会の活動等について報告

くすりのしおりコンコーダンス委員会からの活動報告として、コミュニケーション促進動画（入院編、在宅編）の作成・公開、学会活動、くすりのしおり[®]作成基準（第四版）の改訂について報告しました。また、協議会事務局からはくすりのしおり[®]の利用状況、システム改修予定、英語版くすりのしおり[®]ガイドライン（第三版）の改訂について報告されました。くすりのしおり[®]のHP掲載数は、2015年12月末時点^{*}で日本語版15,041品目、英語版4,985品目と順調に伸びています。今後は、ホームページのスマートフォン対応や検索機能強化により、さらに使いやすいシステムになる予定です。協議会は、“コンコーダンス”の実現に向けて、くすりのしおり[®]がコミュニケーションツールとして医療現場でさらに活用されることを目指し今後も活動していきます。

*2016年4月末現在、日本語版14,791品目、英語版5,116品目を掲載

